

日本脳炎ワクチン

(対象年齢：Ⅰ期：生後6月～90月に至るまでの間（標準として3歳～4歳までの期間）
Ⅱ期：9歳以上13歳の誕生日の前日まで（標準として9歳～10歳）

日本脳炎の予防接種後に重い病気になった事例があったことをきっかけに、平成17年度から平成21年度まで、日本脳炎の予防接種の積極的勧奨の差し控えが行われました。その後新たなワクチンが開発され、現在は日本脳炎の予防接種を通常通り受けられるようになっています。

病気の説明

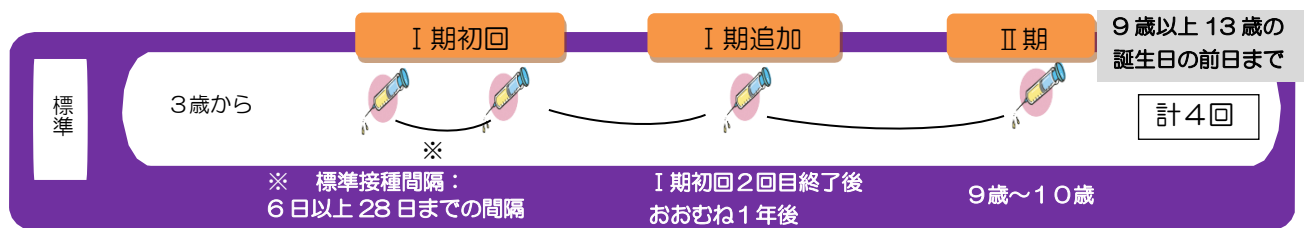
日本脳炎は、日本脳炎ウイルスの感染により起こります。蚊を介して感染します。ヒトから直接ではなく、ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。一般に、日本脳炎ウイルスに感染した場合、およそ1,000人に1人が日本脳炎を発症し、発症した方の20～40%が亡くなってしまうといわれています。また、生存者の45～70%に精神障害などの後遺症が残ってしまうといわれています。ワクチン接種により、日本脳炎の罹患リスクを75～95%減らすことができると報告されています。

接種時期と回数

【Ⅰ期初回】生後6月～90月に至るまでの間
(標準として3歳～4歳までの期間)に6日～28日までの
間隔をおいて合計2回

【Ⅰ期追加】初回接種の2回を終了後、おおむね1年後に1回(生後90月に至るまでの間に)

【Ⅱ期の接種】9歳以上13歳未満(13歳の誕生日の前日まで)の間に1回



副反応と注意点

副反応の大部分は注射した部分の腫れや発赤、発熱などで通常すぐに回復します。しかし、高熱など変わったことがある場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

【救済措置対象者について】

下記の対象者については、未接種分を期限内に定期接種として接種することが可能です。

対象者①：平成12年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた方(20歳になるまでの間)

対象者②：平成19年4月2日から平成21年10月1日に生まれた方で、9歳以上13歳未満の方

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。